

会 議 録

会 議 名	令和3年度第2回東浦町景観まちづくり委員会	
開 催 日 時	令和4年3月5日（土） 午後2時30分から午後4時40分まで	
開 催 場 所	東浦町役場 合同委員会室	
出 席 者	委 員	海道清信氏（委員長）、内藤明綱氏（副委員長）、米澤貴紀氏、梶川幸夫氏、成田盛雄氏、戸田重雄氏、万木和広氏、青山佳子氏、日高啓量氏、尾崎理子氏
	事務局	神谷町長、篠田副町長、水野建設部長、金井建設部技監、川瀬都市計画課長、竹内都市計画係長、鈴木主事、中村主事
議 題 (公開又は非公開の別)	<p>(1) 報告事項（公開）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和3年度若者会議について ・ 景観PR冊子について ・ 景観デザインレビューについて ・ 愛知まちなみ建築賞について <p>(2) 意見交換（公開）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 景観共感プロジェクトについて 	
傍聴者の数	4名	
議 論 内 容 (概 要)	議題の議論内容については、別紙のとおり	
備 考		

議題【(1) 報告事項】

事務局：報告事項について説明

1 令和3年度若者会議について

(1) 概要について

中学生から29歳までの若い世代に、各テーマで自由な視点や発想で考え、話し合ってもらおうイベント。令和3年12月11日に開催された令和3年度第2回若者会議にて、「景観共感プロジェクト～景観の魅力をどう伝えるか一緒に考えてみませんか～」をテーマに、30名の若者が5グループに分かれて議論した。

(2) 各グループの取組内容について

各グループの取組内容を参考資料にまとめた。意見交換の際に参考にしていきたい。

2 景観PR冊子について

(1) 概要について

過去（平成27年度から令和元年度）の景観コンテストの受賞作品をマップと共に冊子にまとめるもの。東浦町の景観に興味を持ってもらい、冊子を片手にまち歩きを楽しんでもらいたいという思いで作成を進めている。

(2) 副題について

主題である「受賞作品集」とは別に、この冊子を手にした方々がまち歩きをしたくなるような副題をつけたい。冊子の活用方法等と合わせてご意見を伺う。

3 景観デザインレビューについて

(1) 概要について

個々の建築行為等を適切に誘導するため、地域で考えた景観形成の方針・基準を拠り所に、自治体、専門家、事業者、設計者、地域住民、景観団体等が必要に応じて同じテーブルで、建物のデザイン等について創造的に議論する協議・調整が行われるもの。

現状、日本では、基本的に強制するものではなく、関係する幅広い専門家や地域の意見を聞き、よりよい事業にしていくための方法の一つといえる。

(2) 模擬レビューについて

本町も公共施設景観ガイドラインの検討を行っていることから、建築等を通じた良好な景観形成・まちづくり推進協議会の支援により、令和元年度にガイダンスと模擬的に景観デザインレビュー（東浦駅周辺整備構想を題材に）を受けた。その内容がガイドブック「景観デザ

インレビューのススメ 4 事例編 景観デザインレビューのヒント」にまとめられたため、報告する。

4 愛知まちなみ建築賞について

(1) 概要について

愛知県では、良好なまちなみ景観の形成や、潤いのあるまちづくりに寄与するなど、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物や、まちなみを表彰することにより、建築物及びまちなみのまちづくりに果たす意義や役割を啓発し、魅力と潤いのある地域の形成を図ることを目的として、1993年度から毎年実施している。

(2) 第29回愛知まちなみ建築賞(2021年度)について

本委員が設計を行った東浦町緒川の「浄土宗 乗林院 庫裏」が受賞した。

委員 長： 景観PR冊子の副題及び活用方法等についてご意見を伺う。

委員： 印刷予定の1000部は、だれを対象に配る予定か。

事務局： まず、受賞した方々及び共催であるイオンモール東浦様にお渡しする予定である。その他に、公共施設等に配布予定である。なお、今年度中に刷り上がり、来年度から配布予定である。

委員： 今後、ホームページに公開することも予定しているか。

事務局： 予定はしている。

委員 長： ダウンロードできる場合、著作権の配慮はどうか。

事務局： 景観コンテストにおいて、作品の著作権は町に委ねるということは謳っているが、再度、ホームページに公開する際は確認する。

委員： 活用方法について、転入手続きに来る場所や、不動産屋に置くのも良い。しかし、学校や病院で配布する場合、すぐになくなる可能性があるため、上手く活用してほしい。

委員： 使われ方により、判断して随時補充していくと良い。

委員： PRの方法について、冊子に書き込むコーナーやアンケートを送るページがあっても良い。

委員 長： ホームページにアップする場合、感想文や現地の写真も載せることができる面白い。

事務局： ホームページのQRコードを冊子に掲載している。提言・ご意見のようになってしまうかもしれないが、気軽にコメントできる仕組みを検討する。

委員： スタンプラリーは、台の設置等、維持が大変である。デジタルスタンプラリーとして現地にQRコードを設置するのはどうか。QRコードを読み込むとその場所に行ったということが分かるような仕組みと実際に足

を運ぶ達成感があると効果的である。現地からリアクションを送れるシステムも良い。

委員： SNSも様々であるが、東浦町の景観のサイトを作るのはどうか。行った場所や感想等が、気楽に投稿・共有できるような上手い方法がローコストである気がする。

委員： SNSを利用されている方は、発信されているモノを見て、旅行先や遊ぶ場所を決めている人が多いため、発信する中身を充実させていくのも良い。

委員： 景観デザインレビューは、定期的に行っているものか。

事務局： 定期的ではなく、規模が大きい公共施設等のプロジェクトがある場合に実施したいと検討している。施主、設計者だけでなく、専門家や地域住民の方々等が同じテーブルで意見を交わすものである。

委員長： 資料には推進協議会とあるが、国土交通省の助成事業により予算が付くということか。

事務局： 今回は、推進協議会の支援により無償で行っている。専門家に様々な視点からレビューをしていただけるため有用であるが、役場では予算や時間だけでなく、専門家の継続的な確保も必要で、取り入れる場合、課題もある。

委員長： アメリカやイギリスでは、自治体の各地区ごとにデザインガイドラインがあり、開発の際に審査がある。国土交通省も推奨している仕組みのため、今後、適当なプロジェクトがある際には、景観デザインレビューを検討してもらいたい。

委員： 景観デザインレビューを実施したことは無いが、ある公共建築の検討の際に、設計が2度頓挫し、3度目で違う設計士となり実現したという経緯があった。設計者選定等、タイミングが難しいと据えておいた方が良い。

なかなか収まらない実情がある中で、取り組まれたことには感心した。

事務局： 景観PR冊子の副題について、ご意見を伺う。現時点での事務局の案は、まち歩きをして欲しいという思いを込めて、「ひがしうら景観探訪（マップ付き）」である。

委員： 「景観探訪」が漢字な点と、「マップ付き」の枠が四角い点が固く感じる。足跡マークや、柔らかい響きの副題にすると良いのではないか。

委員： キャッチーな名前より内容の方が重要である。「景観探訪」でも意味は成している。

委員： 「ひがしうら」は長いので、音感で考えるより、「ひがしうら みてあ

るき」のように平仮名5文字を下につけていくのはどうか。また、主題をこちらにして、副題を「作品集」にした方が手に取りやすいのではないか。

- 委員： ぶらあるき、おさんぼ、のように、お散歩感が欲しい。
- 委員： 背表紙は今のままで良い。平置きにしたときの文字が第一印象になるため、文字の大きさも強弱をつけるべきである。
- 委員： 主題と副題の両方に「東浦」と入っているので、どちらかはいらぬのではないか。
- 委員： 東浦の「うら」に注目するのはどうか。例えば「うらうら」には麗らかという意味があり、まち歩きに向いている気がする。「うら」にかけて言葉をつくるのはどうか。
- 事務局： いただいたご意見をもとに、再度検討する。

議題【(2) 意見交換】

委員長： 次に、景観共感プロジェクトについて事務局から説明をお願いします。

事務局： 意見交換について説明

1 景観共感プロジェクトについて

(1) 令和4年度景観コンテストについて

平成27年度から、東浦町の魅力ある場所を絵画や写真で応募していただきたく、毎年違ったコンセプト及びテーマで開催している。

しかし、毎年、コンセプトやテーマのアイデア出しに苦慮している。今回、委員の皆さまにアイデアやご意見を伺い、来年度の参考としたい。

(2) 令和3年度第1回景観まちづくり委員会について

前回の令和3年度第1回景観まちづくり委員会及び若者会議にていただいたご意見を参考に、今後どのような景観共感プロジェクトを実施していくべきか、意見交換を実施し、今後の取り組みに繋げたい。

委員長： 景観共感プロジェクトについて意見交換を行う。

委員： 建築の設計の段階で、東浦町の取り組みを説明する機会があると良い。補助等のお得な情報を併せた研修会を設ければ、趣旨を理解した上で施主に建築を考えてもらえる。住民目線も大事だが、実際に建築を行う人々にも踏み込んで良いのではないかと。

委員： 実施していきたい取組みである。事業者がどこまで対応してくれるのかや研修に参加してくれるのが難しい面がある。

愛知まちなみ建築賞では、日常の東浦の景観で賞をとれたことが良かった。日常を大切にしていこうと私は伝えていきたい。前回のまちづく

り委員会で意見があったPR動画について、例えばドローンで撮影すれば普段知っている場所も違った視点で見ることができる。ドローンで映した東浦町のぶどう園や学校等の映像が大型店舗等で流れていると、新しい発見がそれぞれの人に訪れるのではないだろうか。うららバスのモニターで配信等はできないのか。

事務局： 配信用には作っておらず、設備上、厳しい。

委員長： 農業のブランド化についてはどうか。

委員： 現在、新規就農者が毎年数名もいない。若い方に農業に魅力をもっといただき、農業生産に取り組むことが、景観においても良いまちづくりができると考える。

委員長： ワインやパフェ等、ぶどうを用いて東浦町に来てもらうような通年の動きはあるか。

委員： 一般に農業の6次産業として、生産から販売までする方はいる。東浦町でもブルーベリーでパンを作って販売する方がいるが、若い方が参加してくれることが一番ありがたいと考える。

委員： ドローンを用いて、夜の星の観測会やまちを探訪するイベントがあると良いのではないか。

また、景観共感プロジェクトの取り組みとして、明德寺川の桜並木沿いの道沿いに100円程度で太陽光発電照明を買えるので、それを使用した街路灯があると、桜の時期におけるライトアップだけでなく、夜にランニングする人や帰宅する人にとって良いと考える。

委員： 行政が景観まちづくりに取り組むことを少しずつでも周知していくことが大切である。事業者等と協議を重ねながら年数をかけて景観の歩みが表面化、顕在化していくことに意義がある。そのためには業者の積極的な協力も重要である。

委員： 条例や届出は、可能な範囲で景観に配慮してもらえないかというレベルであり、上手くいく場合といかない場合がある。東浦の業者が東浦にふさわしい景観を作り続けていくことが理想である。しかし、他市町の業者ではあるが、大規模な建築物の事例にて景観にご配慮いただいた事例もあり、景観への取り組みが顕在化していると考え。少しずつ結果は出ている。

委員長： 以前、滋賀県のとある自治体に景観行政の話聞きに行った。そのまちでは、事前相談として、設計がまだ固まっていない段階から景観について協議する取り組みをされている。申請があった段階では、設計を変えられない場合もあるため、早めの段階で景観について協議しているところがポイントである。

委員： 建物ができてから景観について言われても変えられない。計画段階の際に、幅広く情報発信してもらいたい。

- 委員：住宅を建てる人たちに事前に理解していただけるよう、頻繁に情報発信していくのが良いと考える。
- 委員：大人向けのワークショップとして、まちのマップ作りや、地層の模型作りの体験イベントはどうだろうか。防災マップは町民に配られているが、東浦町にしかない地形を感じたり、津波に備えて高台がどこか確認ができる。
- 委員：東浦町ふるさとガイドでは町の様々な場所が紹介されている。車を持っていない高齢者の方々が、ガイドをもとにうららバスを利用してまちを巡る方法はないだろうか。うららバスは100円で乗れるため、1000円で11枚買える回数券などPRしていくのも良い。
- 委員：うららのバス停からある場所まで行くことが分かるマップを作るのも良い。
- 委員長：うららバスは子どもたちが通学で利用することができるため、他市町と比べて利用客が多い。子どもたちが使わない土日は、観光ルートを通る寺巡りや自然巡りができるというのはどうか。
- 委員：他所から来た人は、情報が少ないことを考慮し、バスの活用を考えていきたい。
- 委員：地域性とその場所の建築の在り方についての一例で、愛知まちなみ建築賞の「土間の屋根 棲家の床」は、1階が鉄筋コンクリートのピロティで、2階に住まいがある。何の変哲もなさそうだが、洪水災害が多いこの土地において、防災的な建築の考え方と暮らしを現代的に統合したという評価を受けている。東浦町にも津波が来る場所と来ない場所があり、応用できる話であるが、施主の防災意識と、建築する側が選択肢を提示することが大事である。その場所の暮らしぶりを表す景観が建築と一体的になった好例だと考える。東浦町でも景観プロジェクトを続けることで、施主が設計者や施工者に対し、計画の前に景観への配慮を促す状態を作り、良いまちになっていくかもしれない。
- 委員長：花を植える、ごみを拾うなど、街並みにとって良い活動の事例を表彰する取り組みも良い。
- 委員：表彰は積極的に行った方が、景観まちづくりを共有するきっかけになる。石浜団地のカカンなど、ほっとするようなものを表彰していけば、皆の暮らしぶりも変わってくると考える。
- 委員長：景観コンテストは絵画と写真が中心だが、新しい部門として、活動や実物の建物を表彰制度に入れることも良い。他市町では広告看板を表彰しているところもある。
- 委員：今度の景観コンテスト表彰式で、作品と一緒にマップも設置すれば作品の場所が分かりやすい。展示会に訪れた人にマップでアピールしたり、描き手にシールを貼ってもらう等、動きのあるイベントを加えてみ

たらどうか。

委員： 子どもたちは毎年成長し、各世代は変わっていく。絵画は続けていてほしい。文章で伝えたい子のために作文や川柳があっても良いのでは。応募作品は、於大公園や明德寺川沿いが多いため、「私だけが知っている東浦秘密の場所」など、マイナーな場所を見つけてもらいやすいテーマが良い。

委員： 私だけが知っているというテーマはとても魅力的である。
コンテストの前段階として、小学生に「景観とは何か」を伝える場はあるか。地域学習と連動させるのも良いが、機会があれば、景観について考えるきっかけになり得る。

委員： 小学生に伝えるために、我々が考えるきっかけにもなるかもしれない。

委員： 小学生向けにまちづくりについて考えるワークショップがあると良い。

委員長： 子ども議会のように「子ども景観まちづくり委員会」を行い、参加の機会を与えるのも良いと考える。

事務局： 学校でそのような機会は設けられていない。前回、ご意見のあった学校教育課とのコラボも含めて、良い意見だったと考えるため、もう一度検討していきたい。景観コンテストについても、私だけが知っているという案は、非常に参考になった。

委員長： 議題は以上で終了とする。

事務局： 以上で本日の会議を終了します。ありがとうございました。